

カテゴリー	講座 No.	【シリーズ名】講座名	講師		開催日	曜日	講座概要
			所属・役職	氏 名			
開講式	S	開講式 & 懇親会付（ハイブリッド開催）	SCI-Japan 代表理事	南雲 岳彦	25/9/2	火	16:00～17:50 開講式、18:00～19:30 懇親会 都内会場とオンラインのハイブリッド開催
A.スマートシティ戦略・リーダーシップ	A1	地域幸福度（Well-Being）指標とスマートシティ1	SCI-Japan 代表理事	南雲 岳彦	25/9/4	木	2回のシリーズで、地域幸福度（Well-Being）指標の概要・仕組み、全国アンケート調査の内容、同指標を活用した現状把握や目標設定の方法論、先進自治体での活用事例等を詳しく解説します。
	A2	地域幸福度（Well-Being）指標とスマートシティ2	SCI-Japan 代表理事	南雲 岳彦	25/9/10	水	2回のシリーズで、地域幸福度（Well-Being）指標の概要・仕組み、全国アンケート調査の内容、同指標を活用した現状把握や目標設定の方法論、先進自治体での活用事例等を詳しく解説します。
	A3	まちづくり共創デザイン論	JTQ株式会社 代表 スペースコンポーザー	谷川 じゅんじ氏	25/9/25	木	前橋市や会津若松市などで各地のスマートシティに取り組んでいる谷川氏がまちづくり・空間プロデュースの実践事例とともに地域におけるウェルビーイング、サステナビリティの実現方法を解説します。
	A4	地域価値創造の戦略と実践 ―福岡における産学官民共創の現場から	福岡地域戦略推進協議会（Fukuoka D.C.）ディレクター	片田江 由佳氏	25/12/16	火	福岡地域戦略推進協議会（FDC）は、福岡の将来像を描き、地域の国際競争力を高めるために、成長戦略の策定から推進までを一貫して行う、産学官民一体の「シンク＆ドゥタンク」です。本講座では、FDCが掲げる都心再生戦略やイノベーション地区形成の取組を紹介するとともに、市民を中心としたオープンイノベーションの手法であるリビングラボをまちづくりの現場に応用してきた実践を取り上げます。行政・企業・大学・市民をつなぎ、価値を生み出すリエゾン（連携・橋渡し）機能の現場から、都市経営における新たな共創のあり方を考えます。
	A5	都市経営人材・リーダーシップ論 1 （アカデミアからのアプローチ）	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授 SCI-Japan 代表理事	出口 敦氏 越塚 登氏 南雲 岳彦	25/9/11	木	アーバンデザイン（都市環境・都市空間の設計）の第一人者で、東京大学スマートシティスクールの主催者である出口氏、都市OS・データ連携基盤の専門家である一般社団法人スマートシティ社会実装コンソーシアムの代表理事を務められる越塚氏をお招きし、都市経営人材育成のあり方について議論します。
	A6	都市経営人材・リーダーシップ論 2 （首長による都市経営実践事例）	尾道市長 慶應義塾大学大学院SDM研究科委員長、教授 早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授 SCI-Japan 代表理事	平谷 祐宏氏 白坂 成功氏 野中 朋美氏 南雲 岳彦	25/12/11	木	現役市長としてまちづくり、都市経営を実践している尾道市平谷市長と、同市のまちづくりプロジェクトを支援している慶應SDM／白坂教授、早大／野中教授をゲストにお招きし、都市経営人材に求められる資質や、実践のなかで得られた教訓・課題等について議論します。
B.先進事例の共有	B1	先進事例の共有 1 ～～データ×行政×産官学民共創の実践例@渋谷区～	一般社団法人 渋谷国際都市共創機構 事務局次長	加藤 茜氏	25/11/27	木	データ活用の可能性と課題を、渋谷区における官民連携の実践事例を交えながら紹介します。渋谷の今を見える化する「SHIBUYA シティ・ダッシュボード」、まちなかに点在する空間活用の可能性を広げる都市空間情報プラットフォーム「SHIBUYA クリエイティブ ジャンクション」、公共空間の可能性を検証した産官学連携プロジェクト「パブリックライフリサーチ」等の実例を題材に、データの収集・分析・活用のプロセスと、現場でのリアルな課題と工夫を共有します。都市のスマート化やデータ活用、官民連携事業にご関心のある方はぜひご参画ください。
	B2	【姫路市】先進事例の共有 2 ～姫路版スマートシティ～	姫路市 デジタル戦略本部 副本部長	原田 学氏	25/11/18	火	姫路市では、デジタル分野の理念・基本方針を定めた「姫路市官民データ活用推進計画」の推進力を高め、デジタル化を加速させるため、「姫路ライフ・デジタル戦略」を令和 3 年度より策定しています。本戦略に基づき、子どもが生まれる前から就職するまでを「子育て」と捉え、さまざまなデジタルサービスの提供を通じて、保護者と子ども双方に対する一貫した切れ目のない子育て支援を行うことで、市民がさまざまなライフシーンで暮らしの豊かさを実感できるスマート都市を構築するため、姫路版スマートシティ事業を推進しています。講義内では、姫路版スマートシティ事業について、これまでの事業展開や推進体制、また事業展開に係る現場の課題感等をご紹介します。
	B3	先進事例の共有 3 ～会津若松市	一般社団法人AiCTコンソーシアム	事務局	25/10/24	金	スマートシティの先進自治体として有名な会津若松市のまちづくりプロジェクトやデータ連携基盤の活用事例等をご紹介します。 ※会津若松市／スマートシティAiCTでの現地開催（13:30～15:30、オンライン配信あり）となります。現地参加向けには、スマートシティAiCT施設見学や懇親会等を予定
C.市民対話の実践	C1	コレクティブインパクトによる社会課題の解決	金沢工業大学SDGs推進センター所長	平本 督太郎氏	25/11/13	木	産官学民協働により社会インパクトを生み出していくことをコレクティブインパクトの創出といい、世界中でこの概念に関連した取り組みが推進されています。また、コレクティブインパクトに関する研究においては、産官学民連携という目的も価値観も違う組織間での連携において何が大事になるのかが、様々な事例研究を積み上げた結果の理論としてまとめられつつあります。 本講座では、ソーシャルイノベーションを専門としアジア・アフリカ地域での国際開発、そして国内の地方創生において関連プロジェクトにかかわってきたコンサル出身の大学教員がコレクティブインパクトについて解説いたします。具体的には、コレクティブインパクトの定義から実践に向けたポイント、実践事例の紹介をいたします。また、コレクティブインパクトの理論の観点から、地域幸福度指標が優れていると言える点についても解説いたします。

カテゴリー	講座 No.	【シリーズ名】講座名	講師		開催日	曜日	講座概要
			所属・役職	氏 名			
C.市民対話の実践	C2	対話から始まる合意形成とプロジェクトの実践	福島県西会津町 CDO	藤井 靖史氏	25/10/28	火	講義内容：地域での活動においてテクノロジー活用もトピックの一つですが、さらに重要な側面として「対話」や「合意形成」があります。この講義では、現場における「対話から始まるプロジェクトの実践」についてお伝えし、皆さんと一緒に考えます。具体的には、企業が自治体と協力して進めるプロジェクトの事例(リビングラボ) や、自治体における総合計画の策定から実践に至るプロセスを取り上げ、古い物語のなかで新しい物語を紡ぐヒントを共有いたします。 ベースとなる考え方：本講義の基盤となるのはポスト構造主義とプリコラージュの概念です。文化人類学的な視点から、我々が何を実践すべきかを考えます。平易な言葉を使いながらも深い思索を促し、楽しく学べる内容とします。
	C3-1	ワークショップ運営（実践）	特定非営利活動法人中小企業・地域創生ネットワーク 理事 東京海上日動火災保険株式会社	土屋 俊博氏 大石 将生氏	25/10/25	土	地域幸福度（Well-Being）指標を活用した政策デザインを学ぶワークショップを体験していただきます。 10/25（土）9:30～12:30（会津若松／スマートシティAiCTでのリアル開催）、 11/1（土）13:30～16:30（オンライン開催）のどちらかを選択
	C3-2	ワークショップ運営（実践）	特定非営利活動法人中小企業・地域創生ネットワーク 理事 東京海上日動火災保険株式会社	土屋 俊博氏 大石 将生氏	25/11/1	土	地域幸福度（Well-Being）指標を活用した政策デザインを学ぶワークショップを体験していただきます。 10/25（土）9:30～12:30（会津若松／スマートシティAiCTでのリアル開催）、 11/1（土）13:30～16:30（オンライン開催）のどちらかを選択
D.スマートシティとルール	D1	①スマートシティと災害対策基本法 ②スマートシティとモビリティサービスに関する法律	TMI総合法律事務所 弁護士	尾形和哉弁護士他	25/10/16	木	防災・減災を目的とした、都市のスマートシティ化は、東南海大地震等への備えの観点からも重要な課題です。災害対策関係法は、災害対策基本法を中心に、予防（災害発生前）、応急（発災直後）、復旧・復興の各フェーズについて個別の法律から成り立っています。本講座では、特に、応急（発災直後）フェーズにおける災害対策基本法の実情と課題について概説の上、今後の目指すべき災害対策について議論します。 また、スマートシティでは、移動需要に応じた最適なモビリティサービスの提供が期待されます。昨年、日本版ライドシェアが解禁されましたが、公共ライドシェアやデマンド交通をはじめとする様々な交通手段や、電動キックボードや自動運転等の新技術を活用したモビリティなど、地域のニーズに応じたモビリティサービスの導入に当たっては、様々な法令が関係します。本講座では、モビリティサービスに関係する法令を整理するとともに、導入時や事故時等の実務的な留意点等を解説します。
E.都市OS／データ連携基盤	E1	スマートシティのための「地理空間データ連携基盤」	株式会社Geolonia 取締役COO	西川 伸一氏	25/9/30	火	スマートシティの実現に向けて、都市に関するあらゆる情報を“地図”の上でつなげて活用する「地理空間データ連携基盤」が注目されています。本講座では、内閣府のスマートシティリファレンスアーキテクチャ Ver.4で都市OSの中核機能として位置づけられたこの基盤の役割と仕組み、導入ステップ、実際の自治体での活用事例を分かりやすく解説します。地理情報を起点にした都市運営やサービス設計に関心のある自治体職員、企画担当者に向けた実践的な内容です。
F.プレミアムコンテンツ	F1	アーバン・サイエンスという新しい領域	東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授	吉村 有司氏	25/9/18	木	情報技術の進展は我々の生活と都市風景を根本的に変えつつあります。このような科学と技術の進歩とそれが引き起こす変化は建築や都市のつくりかたに影響を与えるのでしょうか？「データを用いたまちづくり」は我々の生活を豊かにするのでしょうか？本講演会では建築・都市にとってのAIとビッグデータの可能性を探っていきます。
	F2	都市とウェルビーイング	京都大学人と社会の未来研究院 特定講師	古賀 千絵氏	25/10/9	木	人々の健康は、個人の生活習慣のみならず、社会的・環境的な要因にも大きく影響されます。社会疫学は、健康の社会的決定要因（SDOH）を科学的に明らかにする学問であり、近年ではその中でも最も早い段階での介入である「ゼロ次予防」に注目が集まっています。都市はもともと公衆衛生の向上を目的に整備されてきた歴史があり、現代においても都市空間やインフラは人々の心身の健康と密接に関係しています。たとえば、緑地の有無や道路網、住宅の形態は、うつ症状や死亡リスクと関連があることが、日本のデータでも明らかとなっています。さらに、まちは身体的健康だけでなく、暴力の予防にも影響しうる可能性がある。社会疫学の観点から、まちがいかに人々の健康リスクの抑制に貢献できるかを考えます。
	F3	AI進化のシンギュラリティの社会インパクト（仮）	大阪大学 先導的学際研究機構 教授	栄藤 稔氏	25/12/10	水	本講義では、シンギュラリティの到来とともに進展する協働AI時代における社会システムの再設計について考察します。AIが人間を超える汎用人工知能として社会に浸透し、組織のフラット化や業務の個人化が進む中、スマートシティ推進人材には、効率重視のGDP至上主義からウェルビーイング重視の価値観への転換を見据えた新たな役割が求められます。特に、グリーントランスフォーメーションと低炭素社会の実現を目指す現代においては、技術・ウェルビーイング・規範の三層構造を踏まえた倫理的イノベーションが不可欠です。本講義では、AIと人間が協働する新しい働き方や、包括的かつ持続可能な社会システムの構築、AIガバナンスの基本的な考え方、そしてスマートシティ推進人材に求められるスキルや組織設計について、実践的なフレームワークを交えて解説します。これにより、「豊かに生きるために働く」社会への転換期における、未来都市のあり方を共に探究します。
修了式	S	修了式&懇親会付（ハイブリッド開催）	SCI-Japan 代表理事	南雲 岳彦	26/2/12	木	15:00～19:30 修了式・懇親会ほか 都内会場とオンラインのハイブリッド開催